

○計画期間:令和5年4月～令和10年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成30年度(2018年度)より5年間、内閣総理大臣の認定を受けた、八王子市中心市街地活性化基本計画(第1期)に基づき、ハード・ソフト両面において事業を推進し、一定の成果を上げてきた。その後、令和5年度(2023年度)より第2期計画の認定を受け、本市が目指す中心市街地の都市像である「多様な価値観や幅広い世代がつながり“にぎわい”が生まれるまち」実現に向け設定した3つの基本方針に基づき、第1期計画での成果を最大限に活用した施策展開を掲げている。令和5年度(2023年度)は、計画期間の初年度であった。

令和5年(2023年)5月より、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、法に基づく行動制限が解除となった。その結果、令和5年(2023年)11月に実施した、目標指標のひとつでもある本市中心市街地内23地点における歩行者通行量についても、前年度比2.5%の増加となり、中心市街地内の人の流れが戻り始めた結果となっている。

また、本計画掲載事業である、日本遺産「桑都物語」推進事業や八王子まつりをはじめとした、中心市街地エリア内での様々なイベントの開催や再開、旭町・明神町地区周辺まちづくり推進事業の一環である「えきまえテラス」の開園及び伝統文化伝承・未来創造プロジェクト事業により整備した「桑都テラス」を活用した本市の伝統文化の継承事業の実施等の影響もあり、中心市街地の賑わいの創出にもつながり始めている。

併せて、目標指標のひとつとなっている「地域交流活動施設来場者数」の対象となっている各施設についても、各施設の認知度が向上する等して、令和5年度(2023年度)の施設来場者数が、本計画での目標値を上回る結果となった。

一方、同じく目標指標である「空き店舗数」については、業績不振等の理由による閉店が相次いだこともあり、前年度比では増加傾向となったが、空き店舗改修・リノベーション事業の活用件数が一定程度見込まれたこと等を踏まえ、アフターコロナに向けた今後の展開が期待される状況である。

このように、令和5年度(2023年度)の本市中心市街地は、新型コロナウイルス5類移行といった予測困難な状況の中、コロナ前の状況に戻っていくための明るい兆しが数多く見られる1年であったと思われる。今後は、第1期計画で推進した事業を最大限に活用しながら、第2期計画事業を着実に進めていくため、「官・民・地域」が一体となって、中心市街地の活性化に向け取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度 12 月 31 日)

(1) 居住人口

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	34,183	34,401				
人口増減数	951	218				

(2) 地価

(単位：円/m²)

住所 表示	交通施設 からの距離	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
旭町 2-6	八王子駅前 広場接面	2,600,000	2,710,000				
中町 3-14	八王子駅から 360m	556,000	583,000				
明神町 4-2-18	京王八王子駅 から220m	406,000	425,000				
三崎町 5-10	八王子駅から 440m	404,000	420,000				
横山町 9-13	八王子駅から 580m	436,000	454,000				
子安町 1-32-	八王子駅から 520m	298,000	315,000				
東町 7-4	八王子駅から 200m	1,270,000	1,320,000				

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年度は、11月に協議会を開催し、各事業の経過報告及び第2期計画が始動したこと、それに伴い構成委員が変更になったことについて協議を行った。加えて、中心市街地における様々な動きについて情報共有と意見交換を行い、計画に掲げた事業の円滑な実施に向けた調整に取り組んだ。

特に、現計画の主要事業の一つである「伝統文化伝承・未来創造プロジェクト」について、八王子商工会議所、一般財団法人八王子市まちづくり公社、八王子市による緊密な連携を通じ、令和4年11月に「桑都テラス」がオープン、本市の伝統文化の継承やにぎわいの創出に向けた事業を本格的に実現することが可能になったため、本施設を中心として中心市街地の各施設・関係団体との連携を図り、中町を起点とした伝統文化継承・にぎわい創出を推し進める中核施設として非常に期待できる。

また、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを踏まえ、西放射線ユーロードによる八王子商工会議所主催イベント「わくわくフェア」、桑都テラスを会場による八王子商工会議所ならびに東京多摩日米協会共催イベント「第1回多摩

の伝統芸能まつり in 八王子」を開催したところ、相当数の来場者が「まちなか休憩所 八王子宿」等を利用するなど、中心市街地内の回遊性向上や各取組の相乗効果の創出にもつなげることができた。

本計画の2年目となる令和6年度は、昨年同様、第1期計画で整備完了したハード事業を活用したイベント開催等のソフト事業を確実に実施するほか、それら事業の連携によって相乗効果を生み出し、中心市街地居住者及び来街者が安心して心豊かに過ごし、楽しめるまちの実現に向け、地域をあげて取り組んでいきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
文化・歴史をはじめとする様々なまちの魅力を感じ、回遊できるまちなみ空間の創出	歩行者通行量 (平休日平均) (人/日)	117,769 人/日 (H30~R3の平均)	130,500 人/日	116,910 人/日	C	-	①
	【参考指標】 てくポ利用者数 (人/年)	300 人/年 (R4)	2,170 人/年	2,747 人/年	A	-	①
市民や来街者を惹きつける、個性あふれる商業空間の創出	空き店舗数 (店舗)	86 店舗 (R3)	65 店舗	72 店舗	B	-	①
地域での交流を通じて共に安心して過ごせる交流空間の形成	地域交流活動 施設来場者数 (人/年)	34,601 人/年 (R3)	66,000 人/年	88,398 人/年	A	-	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」については、令和5年(2023年)5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行動制限が解除され、各所でイベントが再開されたことにより、来街者の大幅な増加が期待されたものの、人々の行動様式はすぐに元通りとはならず、基準値に至らない結果となった。しかし、令和2年度以降は回復傾向が続いており、今後新型コロナウイルス感染症拡大の中、整備を進めた「まちなか休憩所 八王子宿」や「桑都テラス」、「えきまえテラス」といった施設の運営や各所でのイベントの実施といった各事業を着実に進めていくことにより、その効果が表出し、目標達成は可能であると考えます。

参考指標である「てくポ利用者数」については、新型コロナウイルスが5類に移行したことによる高齢者の外出への意識の高まりと「まちなか休憩所 八王子宿」のようなまちなかの休憩スポットへのニーズの高まりにより、既に目標値を達成した。今後も周辺でのイベントの再開により、施設の知名度が上がり、利用者数は増加すると考える。

「空き店舗数」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等もあり、全国的な経営環境の悪化により、本市についても飲食店の閉店が多く見られた。一方で空き店舗改修・リノベーション事業により、5件の路面店舗への出店が実現しており、中心市街地の空き店舗には一定の流動性があると考えられる。引き続き空き店舗を活用した出店を促進するとともに、既存店舗が閉店しないよう中心市街地での消費活動を促進することで、目標達成が見込まれる。

「地域交流活動施設来場者数」については、「まちなか休憩所 八王子宿」が、近隣施設の「桑都テラス」との相乗効果、周辺でのイベントの再開に伴い、来場者数を特に伸ばし、既に目標値を達成した。対象の4施設は全て新型コロナウイルス感染症拡大の中オープンしたものであるため、引き続き周知活動に力を入れていくことで、さらに利用者数は増加すると考える。

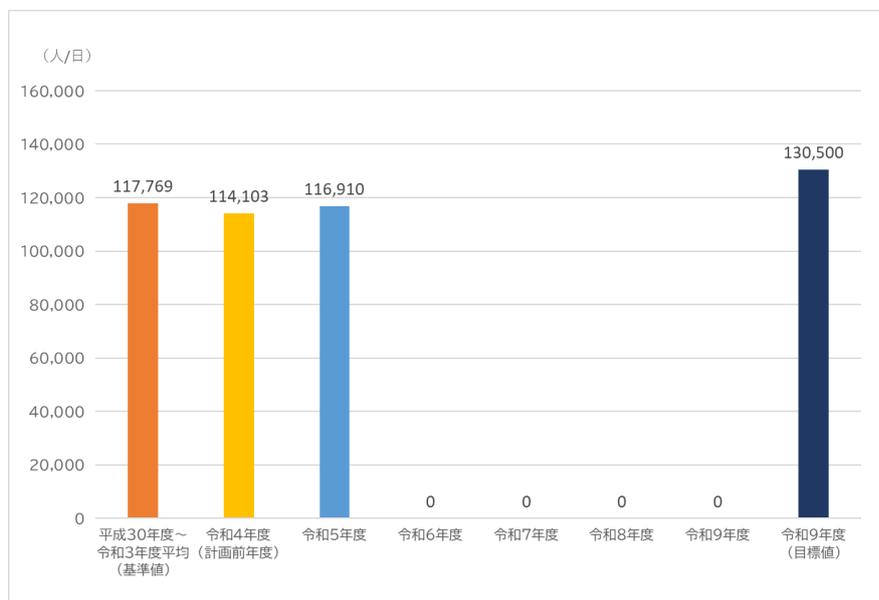
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由なし

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者通行量（平休日平均）（人/日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 84～P. 88 参照

●調査結果と分析



年	（人/日）
H30～R3 平均	117,769 （基準年値）
R 4	114,103 （計画前年度）
R 5	116,910
R 6	
R 7	
R 8	
R 9	
R 9	130,500 （目標値）

※調査方法：中心市街地内 23 地点における歩行者数を計測

（11 月第 4 日曜日及びその 2 日後の火曜日の 9 時～22 時）

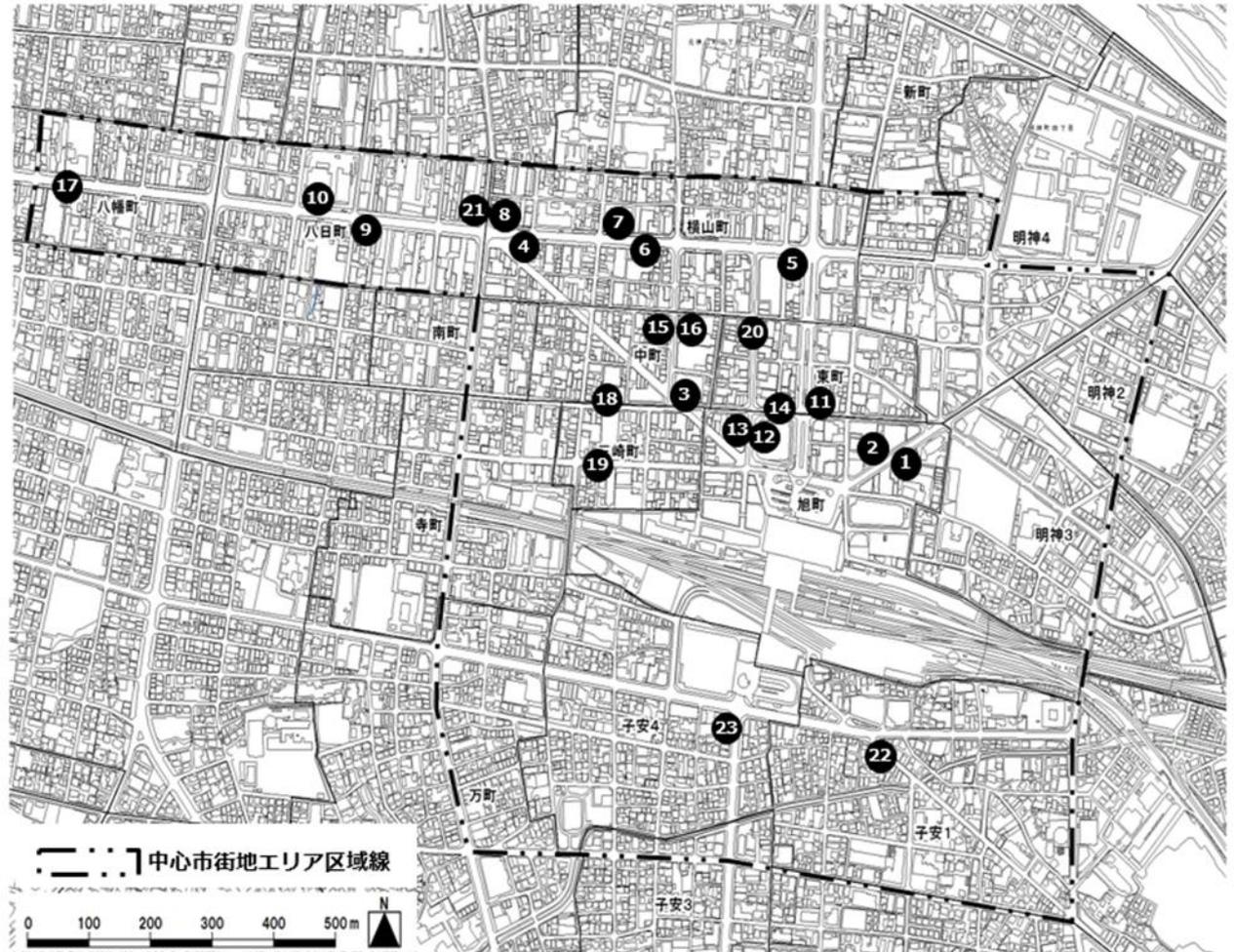
※調査月：令和 5 年（2023 年）11 月

※調査主体：八王子市

※調査対象：中心市街地内 23 地点における歩行者通行量

- ①東放射線アイロード①、②東放射線アイロード②、③ドン・キホーテ前、④横山町公園、⑤八王子駅入口交差点、⑥甲州街道①、⑦甲州街道②、⑧八日町交差点、⑨甲州街道③、⑩甲州街道④、⑪桑並木通り、⑫八王子スクエアビル西①、⑬八王子スクエアビル西②、⑭八王子スクエアビル北、⑮パーク壺番街通り①、⑯パーク壺番街通り②、⑰甲州街道⑤、⑱富士見通り、⑲みさき通り、⑳ジョイ五番街通り、㉑みずき通り、㉒野猿街道、㉓とちの木通り）

※調査地点図：下図のとおり



※調査結果：下表のとおり

(単位：人/日)

	平成30年度～ 令和3年度平均	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
	(基準値)	(計画前年度)	(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(5年目)	(目標値)
歩行者通行量 ※平日平均=(休日23地点合計値×2 +平日23地点合計値×5)÷7 ※平均結果は四捨五入	117,769	114,103	116,910	0	0	0	0	130,500
休日 合計	120,075	120,182	117,859	0	0	0	0	
No.1 東放射線アイロード①	17,463	16,503	20,267					
No.2 東放射線アイロード②	3,864	3,975	3,608					
No.3 ドン・キホーテ前	21,021	22,635	23,282					
No.4 横山町公園	9,635	8,927	7,836					
No.5 八王子駅入口交差点	3,280	4,107	3,244					
No.6 甲州街道①	2,113	2,123	2,068					
No.7 甲州街道②	1,537	2,035	1,541					
No.8 八日町交差点	1,928	2,304	1,963					
No.9 甲州街道③	2,610	2,510	2,441					
No.10 甲州街道④	3,045	2,362	2,429					
No.11 桑並木通り	6,814	6,882	6,099					
No.12 八王子スクエアビル西①	8,209	8,167	7,462					
No.13 八王子スクエアビル西②	3,002	3,742	3,148					
No.14 八王子スクエアビル北	9,952	8,517	8,062					
No.15 パーク壱番街通り①	2,472	2,697	2,189					
No.16 パーク壱番街通り②	4,494	3,180	3,112					
No.17 甲州街道⑤	1,234	1,266	1,418					
No.18 富士見通り	4,796	5,383	5,168					
No.19 みさき通り	2,553	2,801	2,726					
No.20 ジョイ五番街通り	3,078	3,317	3,266					
No.21 みずき通り	1,603	1,518	1,228					
No.22 野猿街道	3,216	3,246	3,315					
No.23 とちの木通り	2,161	1,985	1,987					
平日 合計	116,846	111,671	116,530	0	0	0	0	
No.1 東放射線アイロード①	20,017	19,241	16,883					
No.2 東放射線アイロード②	4,932	4,685	4,791					
No.3 ドン・キホーテ前	17,323	17,325	18,355					
No.4 横山町公園	7,940	7,496	8,324					
No.5 八王子駅入口交差点	3,454	4,317	4,052					
No.6 甲州街道①	2,048	1,901	2,281					
No.7 甲州街道②	1,848	1,891	1,852					
No.8 八日町交差点	2,613	2,838	2,942					
No.9 甲州街道③	2,532	2,172	2,647					
No.10 甲州街道④	2,725	2,451	2,766					
No.11 桑並木通り	6,088	5,722	6,579					
No.12 八王子スクエアビル西①	6,895	6,708	7,405					
No.13 八王子スクエアビル西②	3,597	3,592	3,759					
No.14 八王子スクエアビル北	9,175	7,897	7,860					
No.15 パーク壱番街通り①	2,207	2,086	2,073					
No.16 パーク壱番街通り②	4,097	2,775	3,446					
No.17 甲州街道⑤	1,404	1,119	1,728					
No.18 富士見通り	5,078	4,769	5,127					
No.19 みさき通り	2,871	2,654	2,871					
No.20 ジョイ五番街通り	2,937	3,210	3,383					
No.21 みずき通り	1,414	1,251	1,470					
No.22 野猿街道	3,087	3,034	3,102					
No.23 とちの木通り	2,568	2,537	2,834					

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度（2020年度）は歩行者通行量が減少したものの、その後は回復傾向にある。令和5年度（2023年度）においては、基準値に回復するまでは至っていないものの、新型コロナウイルス感染が5類へ移行したことによるイベントの再開等の要因により、前年度との比較では2.5%の増加（+2,807人）となった。特に調査地点No.3 ドン・キホーテ前については、前年度（2022年度）は18,842人（平休日平均）であったところ、令和5年度（2023年度）は4.9%の増加（+921）となっており、買い物や飲食のために中心市街地を訪れる人が増加していると考えられる。

一方で、調査地点No.1 東放射線アイロード①については、前年度（2022年度）は18,459人（平休日平均）であったところ、令和5年度（2023年度）は3.3%の減少（-609人）となっている。そもそもの減少の原因は定かではないが、後述する旭町・明神町地区周辺まちづくりの推進事業により整備した「えきまえテラス」は令和5年（2023年）11月に開園しており、歩行者通行量調査日から3週間程度しかなかったため、少なくとも事業効果は表出していないのと思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伝統文化伝承・未来創造プロジェクト運営事業

（一般財団法人八王子市まちづくり公社、八王子商工会議所、八王子市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	本市の歴史・文化の発信・伝承や地域に根ざす老舗の創出を図るとともに、アフターコンベンションに資する複合施設（桑都テラス）を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業本施設の店舗8区画すべてに飲食店や物販店が入居し、商業施設としての機能が向上した他、伝統文化を発信する「多摩の伝統芸能まつり」など、年間57件のイベントが開催され、来街者をまちなかに誘引することに寄与している。
事業の今後について	さらなる来館者の増加のために、公式ホームページやインスタグラムに加え、市民に配布される広報誌への掲載を行う等して周知をする。

②. 八王子駅南口集いの拠点連携事業（八王子市、民間事業者）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	令和8年度供用開始予定である「八王子駅南口集いの拠点」の来場者の中心市街地への誘導を促進するため、同拠点と連動したイベントの開催や街路へのフラッグの掲示等を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し

事業目標値・最新値及び進捗状況	JR 八王子駅南口から集いの拠点へのアクセス路に対して、賑わい空間の創出やあらゆる世代の人がアクセスできる新たなモビリティの導入について調整・検討している。
事業の今後について	JR 八王子駅南口周辺の町会・商店会等とワークショップを実施し、とちの木通りの賑わい空間創出に向けて検討を行う。

③. MICE 等来街者おもてなし促進事業

(八王子市、公益社団法人八王子観光コンベンション協会)

事業実施期間	令和 5 年度～【実施中】
事業概要	東京たま未来メッセ等における MICE 及び各種イベント、会議への来街者をまちなかに誘引し、中心市街地内での消費を喚起するために、プロモーション活動や歓迎フラッグの掲示等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度の中心市街地における MICE 開催件数は 16 件であった。これらの東京たま未来メッセ等における MICE やその他各種イベント、会議への来街者に対して、観光パンフレット等を配布し、まちなかに誘引することに寄与している。また、桑都テラス及び東京たま未来メッセのオープンに伴い、東西の施設を結ぶ歓迎フラッグを掲示し、回遊性の向上や地域経済への波及効果を生み出し、中心市街地の活性化を促進した。
事業の今後について	より多くの来街者をまちなかに誘引するため、引き続き観光パンフレット等を配布するほか、中心市街地の情報を効果的に発信していく。

④. 空き店舗改修・リノベーション事業（八王子市、民間事業者）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	まちなかの店舗の連続性の確保と出店促進に向け、中心市街地内の空き店舗を改修又はリノベーションして出店する事業者に対して補助を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 補助対象経費：解体工事費、外壁工事費、看板設置工事費、内装工事費、建具工事 費、給排水衛生設備工事費、電気設備工事費、空調・冷暖房設備工事費、ガス設備工事費、住宅分離工事費 補助限度額：50 万円又は実際に要した費用のいずれか少ない額
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は、本事業を活用して 7 店舗が開業した。本事業を活用して新たに飲食店や美容室等が開業したことにより、歩行者通行量の増加に寄与している。

事業の今後について	さらなる活用の促進に向け、情報発信の方法を工夫しながら効果的に周知を行う。
-----------	---------------------------------------

⑤. 空き店舗マッチング事業（八王子市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	民間の不動産事業者等と連携し、中心市街地の空き店舗に出店を希望する者に対して、出店希望条件に合った貸店舗の情報を提供し、出店希望者とオーナーとのマッチングを行い、空き店舗解消、新規出店の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は、3 件の申請のうち、1 件の情報提供を行った。出店希望者の希望に合致する店舗の情報提供が無かったため、すべての申請に対して情報提供を行うことができなかった。
事業の今後について	出店希望者に対しては、完全に希望と一致する店舗だけではなく、希望に近い店舗を広く情報提供できるようマッチング支援ネット参加事業者に依頼を行う。特に、情報提供ができなかった出店希望者に対しては、空き店舗改修・リノベーション事業の活用を周知することにより、本事業と併せて中心市街地の空き店舗の活用を促進していく。

⑥. 魅力づくり・にぎわい創出支援事業（八王子市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	<p>中心市街地の新たな魅力創出による回遊性促進のため、民間事業者の土地を活用した滞留拠点や休憩スペース、統一的な景観といったハード整備に対して支援を行う。</p> <p>また、中心市街地内で実施される屋外イベントや飲食店を回遊するイベント、オープンカフェなどのうち、公共性・公益性が高く、八王子のシティプロモーションに資するソフト事業に対して支援を行う。</p> <p>【ハード整備支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象経費：施設整備費、物品購入費、広告作成費、イベント開催費 ・補助率：4/5 <p>【ソフト事業支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象経費：広報費、会場設営費、安全衛生対策費、消耗品費、謝金、諸経費 ・補助率：10/10
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年度～令和 9 年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度（2023年度）における本事業の活用実績は10件となった。ハード事業支援では中町の民地における案内サイン及び植栽の設置、ソフト事業支援では飲食店を回遊するイベントや屋外で実施するイベントの開催、店舗紹介マップの作成などを補助したことにより、にぎわいを創出するとともに、歩きやすいまちづくりに寄与している。
事業の今後について	屋外イベントの開催支援による中心市街地のさらなるにぎわいの創出のため、令和5年度に整備された「えきまえテラス」を会場として事業を実施する事業者は、本拠地の市内外を問わず補助対象とする規定を令和6年度から追加し、同所をイベント開催場所としての活用を促進する。

⑦. まちなか休憩所 八王子宿の運営（八王子市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	来街者の安らぎの空間を創出し、中心市街地の回遊性を促進するため、西放射線ユーロードに近接する中町において休憩施設を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
事業目標値・最新値及び進捗状況	八王子まつり当日は開館時間を延ばすなど、イベントをきっかけとして来訪した市民等の施設利用を促すほか、スタンプラリーのスポットとしての施設の利用に協力した。令和5年度来場者数は52,176人と前年度から17,457人増加しており、休憩所の利用を促進することで、さらなる回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	中心市街地の回遊性を促進するため、施設の利便性を向上させ、気軽に立ち寄りやすい環境を整備する。

⑧. まちの駅八王子 CHITOSEYA における地域活性化事業（民間事業者、八王子市）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	八王子市と運営に係る覚書を締結した民間事業者が主体となり、定期的に様々なコミュニティづくりの場を設け、地域のNPO法人や商店会・町会、新規創業者、クリエイター、学生、新規住民等の積極的な参画を促し、新たなつながりや価値が創出される拠点として活用して、活発な地域づくりを促進する。 また、施設の飲食・物販機能を活かして、市内の生産者や福祉施設等による商品のPRを行い、共感の創出及び地産地消を推進するとともに、サステナブル地域づくり等に向けた参加機運の醸成を図る。 その他、農業者や地場産業事業者等と連携した体験教室やワークショップの開催、読んだ人が感想を重ねていく寄贈本による「まちら

	イブラリー」の運営、ダンボールコンポストの講習会、再生パソコンやみつろうラップづくりワークショップの開催等、まちなかにいながら農と自然・ものづくりをはじめとする様々な体験及び交流ができる「まちの駅」としての場を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	季節に応じた飲食メニュー・ギフトの充実や、地域の生産者や作家との交流を図れるイベントの開催のほか、八王子まつりやいちょう祭り等、地域のイベントにも積極的に参加した。令和5年度の来場者数は22,722人となり、回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	令和4年6月にオープン以降、事業は順調に進捗している。引き続き、運営状況を鑑みて、適宜新たな商品の導入や見直しを実施するとともに、引き続き地域との関わりを持つ活動を行っていく。

⑨. 旭町・明神町地区周辺まちづくりの推進事業（八王子市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	東京たま未来メッセと連携した旭町・明神町地区の一体的なまちづくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	東京都市町村土木補助事業（交通安全施設等整備）
事業目標値・最新値及び進捗状況	保健所跡地を活用し、市街地再開発事業の実施までの期間、暫定的に広場として有効利用を図るため「えきまえテラス」を整備し、令和5年11月から供用を開始した。
事業の今後について	隣接する「東京都立多摩産業交流センター（東京たま未来メッセ）」と連携し、中心市街地の活性化によるまちの魅力向上を図るため、引き続き様々なイベントや市民活動等での利用や、市民、来街者の憩いの空間形成を目的に一般開放する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

各事業は予定どおり進捗しているものの、令和5年度（2023年度）は未だ基準値を下回る116,910人/日という結果となった。

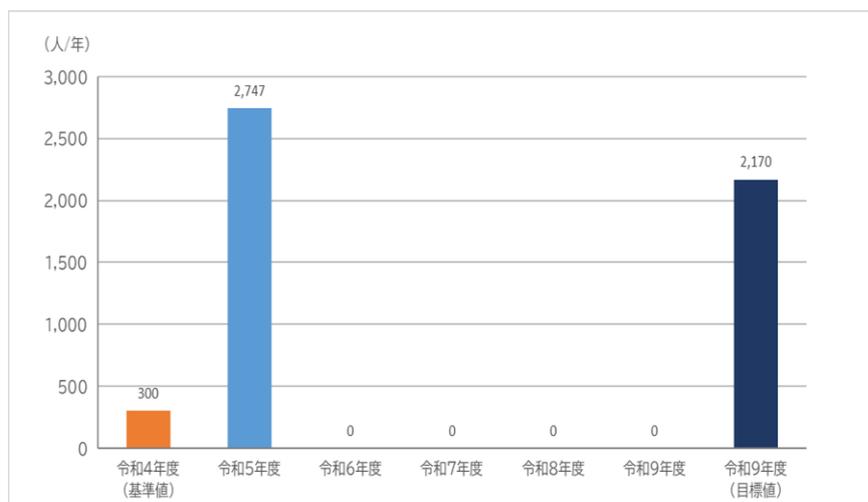
一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度（2020年度）には107,431人/日まで落ち込んだものの、その後は回復傾向が続いている。これは令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、買い物や飲食を目的とした来街者が増加したほか、近年は中止となっていた中心市街地のイベントが軒並み復活したことも、影響しているものと考えられる。

今後、各事業の実施を進めることによって、さらなる事業効果が発現し、目標達成が可能であると考えられる。

(2) 【参考指標】「てくポ利用者数 (人/年)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.97 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R 4	300 (基準年値)
R 5	2,747
R 6	
R 7	
R 8	
R 9	2,170 (目標値)

※調査方法： まちなか休憩所 八王子宿における「てくポ」のチェックイン件数

※調査月： 令和5年(2023年)4月～令和6年(2024年)3月

※調査主体： 八王子市

※調査対象： まちなか休憩所 八王子宿における「てくポ」利用者

〈分析内容〉

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、65歳以上の市民が市街地へ出る機会が増え、健康維持アプリ「てくポ」の利用と「まちなか休憩所 八王子宿」のニーズが高まったことで、当初期待された効果を上回った。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか休憩所 八王子宿の運営 (八王子市)

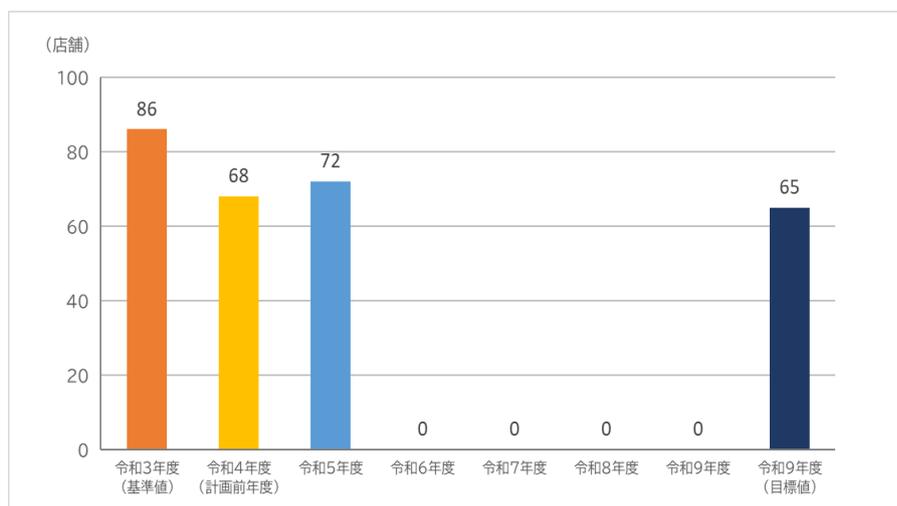
事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	来街者の安らぎの空間を創出し、中心市街地の回遊性を促進するため、西放射線ユーロードに近接する中町において休憩施設を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度の本施設への来場者数は52,176人であり、てくポチェックイン件数は2,747件であった。どちらも昨年度から数値が大幅に増加しており、まち歩きの休憩スポットとして本施設を利用してもらうことにより、まちなかの回遊性向上に寄与している。
事業の今後について	中心市街地の回遊性を促進するため、施設の利便性を向上させ、気軽に立ち寄りやすい環境を整備する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗し、目標を達成した。「まちなか休憩所 八王子宿」の利便性を向上させ、「てくポ」利用者が気軽に立ち寄りやすい環境を整備することで、さらに実績を伸ばしていきたい。

(3)「空き店舗数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 90～P. 91 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R 3	86 (基準年値)
R 4	68
R 5	72
R 6	
R 7	
R 8	
R 9	65 (目標値)

※調査方法： 巡回・目視により中心市街地内の空き店舗数を計測

※調査月： 令和5年(2023年)11月

※調査主体： 八王子市

※調査対象： 中心市街地内において、テナントに入居していないなど、事業活用の可能性があるものの活用されていない路面店舗。

〈分析内容〉

主要事業が概ね順調に進捗しており、後述する空き店舗改修・リノベーション事業では、空き店舗マッチング事業と合わせて令和9年度までに17店舗の1階へ部分への出店を見込んでいるが、令和5年度は、既に7件の交付決定、そのうち1階への出店は6件という結果となった。

これは両事業の取り組みのほか、伝統文化伝承・未来創造プロジェクト運営事業により整備した桑都テラスにおける飲食店の営業やイベントの開催など、中心市街地における様々なコンテンツの提供による商業空間の創出により、期待された効果が発現しているといえる。

一方で前年度と比較すると4店舗増加しているが、これは物価高、人手不足といった経営環境の悪化が原因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改修・リノベーション事業（八王子市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	<p>まちなかの店舗の連続性の確保と出店促進に向け、中心市街地内の空き店舗を改修又はリノベーションして出店する事業者に対して補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象経費：解体工事費、外壁工事費、看板設置工事費、内装工事費、建具工事 費、給排水衛生設備工事費、電気設備工事費、空調・冷暖房設備工事費、ガス設備工事費、住宅分離工事費 ・補助限度額：50 万円又は実際に要した費用のいずれか少ない額
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値：17 店舗※（当事業による空き店舗の解消） 最新値：6 店舗※</p> <p>令和 5 年度（2023 年度）は、本事業を活用し中心市街地の 7 店舗が空き店舗解消となった。そのうち路面店舗は 5 店舗と、中心市街地の路面空き店舗の減少に向け順調に進んでいる。</p> <p>※②空き店舗マッチング事業による空き店舗解消と合算した数値</p>
事業の今後について	さらなる活用の促進に向け、情報発信の方法を工夫しながら効果的に周知を行う。

②. 空き店舗マッチング事業（八王子市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	民間の不動産事業者等と連携し、中心市街地の空き店舗に出店を希望する者に対して、出店希望条件に合った貸店舗の情報を提供し、出店希望者とオーナーとのマッチングを行い、空き店舗解消、新規出店の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値：17 店舗※（当事業による空き店舗の解消） 最新値：6 店舗※</p> <p>令和 5 年度（2023 年度）は、3 件の申請のうち、1 件の情報提供※²を行った。出店希望者の希望に合致する店舗の情報提供が無かったため、すべての申請に対して情報提供を行うことができなかった。</p> <p>※¹①空き店舗改修・リノベーション事業による 1 階への出店と合算した目標値及び最新値</p> <p>※²本事業において、物件の成約は民間事業者間で行われるものであるため、市から申請事業者への情報提供数を空き店舗解消数としている。</p>

事業の今後について	出店希望者に対しては、完全に希望と一致する店舗だけではなく、希望に近い店舗を広く情報提供できるようマッチング支援ネット参加事業者に依頼を行う。特に、情報提供ができなかった出店希望者に対しては、空き店舗改修・リノベーション事業の活用を周知することにより、本事業と併せて中心市街地の空き店舗の活用を促進していく。
-----------	--

③. 伝統文化伝承・未来創造プロジェクト運営事業

(一般財団法人八王子市まちづくり公社、八王子商工会議所、八王子市)

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	本市の歴史・文化の発信・伝承や地域に根ざす老舗の創出を図るとともに、アフターコンベンションに資する複合施設（桑都テラス）を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	本施設の店舗8区画すべてに飲食店や物販店が入居し、商業施設としての機能が向上した他、伝統文化を発信する「多摩の伝統芸能まつり」など、年間57件のイベントが開催され、来街者をまちなかに誘引し、消費活動を促進している。
事業の今後について	さらなる来館者の増加のために、公式ホームページやインスタグラムに加え、市民に配布される広報誌への掲載などの周知をする。

④. MICE 等来街者おもてなし促進事業

(八王子市、公益社団法人八王子観光コンベンション協会)

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	東京たま未来メッセ等におけるMICE及び各種イベント、会議への来街者をまちなかに誘引し、中心市街地内での消費を喚起するために、プロモーション活動や歓迎フラッグの掲示等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和5年度～令和9年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度の中心市街地におけるMICE開催件数は16件であった。これらの東京たま未来メッセ等におけるMICEやその他各種イベント、会議への来街者に対して、観光パンフレット等を配布し、まちなかに誘引することに寄与している。また、桑都テラス及び東京たま未来メッセのオープンに伴い、東西の施設を結ぶ歓迎フラッグを掲示し、回遊性の向上や地域経済への波及効果を生み出し、中心市街地の活性化を促進した。
事業の今後について	より多くの来街者をまちなかに誘引するため、引き続き観光パンフレット等を配布するほか、中心市街地の情報を効果的に発信してい

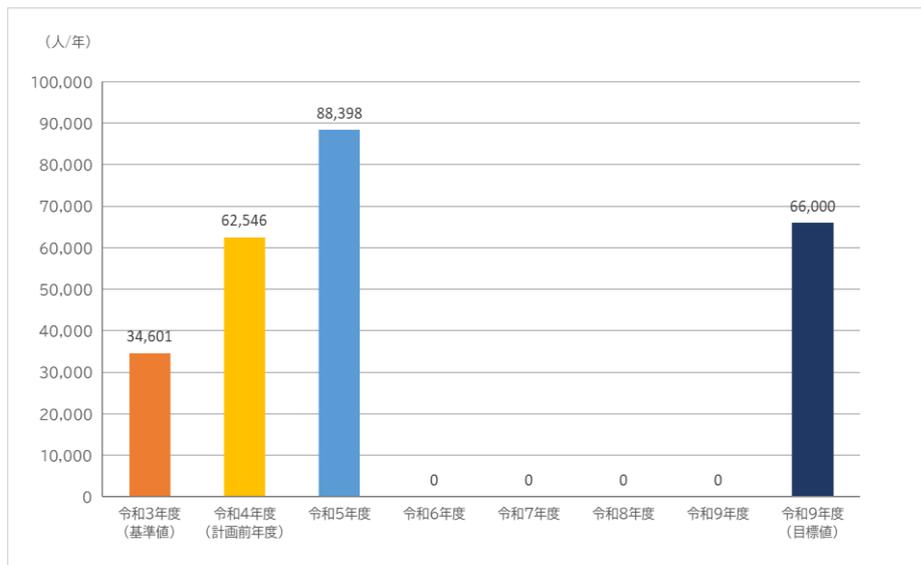
く。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業が概ね順調に進捗しており、各事業の実績から目標達成は可能だと考える。物価高、人手不足といった全国的な経営環境の悪化から見ても、引き続き空き店舗改修・リノベーション事業等による開業への補助を実施し、空き店舗への入居を促すとともに、各事業を推進することで来街者をまちなかに誘引し、中心市街地での消費活動を促進して、閉店する店舗を減らし空き店舗数の減少につなげたい。

(4) 「地域交流活動施設来場者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 93～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
R3	34,601 (基準年値)
R4	62,546
R5	88,398
R6	
R7	
R8	
R9	66,000 (目標値)

※調査方法：施設運営者、施設管理受託者への調査

※調査月：令和5年(2023年)4月～令和6年(2024年)3月

※調査主体：八王子市

※調査対象：まちなか休憩所 八王子宿、まちなか駅八王子 CHITOSEYA、YOTTETTE
まちはぐ

	(単位:人/年)							
	令和3年度 (基準値)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目) (目標値)	
地域交流活動施設来場者数	34,601	62,546	88,398	0	0	0	0	66,000
まちなか休憩所 八王子宿	21,347	34,719	52,176					32,000
まちなか駅八王子 CHITOSEYA	13,254	14,327	20,722					22,000
YOTTETTE		5,000	5,000					12,000
まちはぐ		8,500	10,500					

※令和4年度(2022年度)の「まちなか駅八王子 CHITOSEYA」については、令和4年(2022年)6月にオープンしたため、令和4年(2022年)6月から令和5年(2023年)3月の来場者数

〈分析内容〉

令和5年度（2023年度）については「まちなか休憩所 八王子宿」への来館者数が52,176人と基準値から大幅に増加し、既に地域交流活動施設来場者数が目標値に達する結果となった。

これは近隣施設である「桑都テラス」との相乗効果や、八王子まつりを始めとするイベントの再開に伴う認知度の向上が主な要因と考えられる。

また、「まちの駅八王子 CHITOSEYA」については、季節に応じた商品の提供や、イベントの開催、積極的な地域のイベントへの参加により、着実に施設の認知度が向上するとともに、リピーターも増加したものと見られる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか休憩所 八王子宿の運営（八王子市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	来街者の安らぎの空間を創出し、中心市街地の回遊性を促進するため、西放射線ユーロードに近接する中町において休憩施設を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：32,000人/年（当事業による地域交流活動施設来場者数） 最新値：52,176人/年 八王子まつり当日は開館時間を延ばすなど、イベントをきっかけとして来訪した市民等の施設利用を促すほか、スタンプラリーのスポットとして協力することで来場者数増加に寄与した。
事業の今後について	中心市街地の回遊性を促進するため、施設の利便性を向上させ、引き続き気軽に立ち寄りやすい環境を整備する。

②. まちの駅八王子 CHITOSEYA における地域活性化事業（民間事業者、八王子市）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	八王子市と運営に係る覚書を締結した民間事業者が主体となり、定期的に様々なコミュニティづくりの場を設け、地域のNPO法人や商店会・町会、新規創業者、クリエイター、学生、新規住民等の積極的な参画を促し、新たなつながりや価値が創出される拠点として活用して、活発な地域づくりを促進する。 また、施設の飲食・物販機能を活かして、市内の生産者や福祉施設等による商品のPRを行い、共感の創出及び地産地消を推進するとともに、サステナブル地域づくり等に向けた参加機運の醸成を図る。 その他、農業者や地場産業事業者等と連携した体験教室やワークショップの開催、読んだ人が感想を重ねていく寄贈本による「まちら

	イブラリー」の運営、ダンボールコンポストの講習会、再生パソコンやみつろうラップづくりワークショップの開催等、まちなかにいながら農と自然・ものづくりをはじめとする様々な体験及び交流ができる「まちの駅」としての場を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：22,000人/年（当事業による地域交流活動施設来場者数） 最新値：20,722人/年 季節に応じた飲食メニュー・ギフトの充実や、地域の生産者や作家との交流を図れるイベントの開催のほか、八王子まつりやいちよう祭り等、地域のイベントにも積極的に参加した。
事業の今後について	令和４年６月にオープン以降、事業は順調に進捗している。引き続き、運営状況を鑑みて、適宜新たな商品の導入や見直しを実施するとともに、引き続き地域との関わりを持つ活動を行っていく。

③. 伝統文化伝承・未来創造プロジェクト運営事業

（一般財団法人八王子市まちづくり公社、八王子商工会議所、八王子市）

事業実施期間	令和２年度～【実施中】
事業概要	本市の歴史・文化の発信・伝承や地域に根ざす老舗の創出を図るとともに、アフターコンベンションに資する複合施設（桑都テラス）を運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業本施設の店舗８区画すべてに飲食店や物販店が入居し、商業施設としての機能が向上した他、伝統文化を発信する「多摩の伝統芸能まつり」など、年間５７件のイベントが開催され、多くの来街者を誘引している。
事業の今後について	さらなる来館者の増加のために、公式ホームページやインスタグラムに加え、市民に配布される広報誌への掲載などの周知をする。

④. MICE 等来街者おもてなし促進事業

（八王子市、公益社団法人八王子観光コンベンション協会）

事業実施期間	令和５年度～【実施中】
事業概要	東京たま未来メッセ等における MICE 及び各種イベント、会議への来街者をまちなかに誘引し、中心市街地内での消費を喚起するために、プロモーション活動や歓迎フラッグの掲示等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度の中心市街地におけるMICE開催件数は16件であった。これらの東京たま未来メッセ等におけるMICEやその他各種イベント、会議への来街者に対して、観光パンフレット等を配布し、まちなかに誘引することに寄与している。また、桑都テラス及び東京たま未来メッセのオープンに伴い、東西の施設を結ぶ歓迎フラッグを掲示し、回遊性の向上や地域経済への波及効果を生み出し、中心市街地の活性化を促進した。
事業の今後について	より多くの来街者をまちなかに誘引するため、引き続き観光パンフレット等を配布するほか、中心市街地の情報を効果的に発信していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

調査対象となっている4施設のうち3施設の来場者数が前年度と比較して増加しており、既に目標値を達成する結果となった。これら3施設は全て新型コロナウイルス感染症拡大の中オープンしたものであるが、令和5年度（2023年度）においては施設周辺でのイベントの多くが再開したこともあり、引き続き周知活動を行っていくことで各施設の知名度が向上し、来場者数が増加するものとする。